

2022年6月24日

ボーイスカウト練馬地区で
活動に携わる指導者のみなさまへ

ボーイスカウト練馬地区
地区委員長 中田 昇
SfH・安全委員長 佐藤 直樹
地区コミッショナー 山田 想

新型コロナウイルス感染者の減少傾向を受けて

三指

日頃より、スカウト活動の充実にお力添えをいただき、ありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための各団、各位におけるお取り組みに、あらためて御礼を申し上げます。

東京都が新型コロナウイルス対策として設定していたリバウンド警戒期間が、5月22日をもって終了しました。その後も引き続き、基本的な感染防止対策の徹底、ならびに感染を広げないための行動が呼びかけられております（東京都発の「[5月23日以降の取り組み](#)」をご参照ください）。

一方で、気温の上昇に伴い、熱中症への配慮も欠かせなくなってきました。例えば練馬区では、新しい生活様式における熱中症を防ぐポイントを呼び掛けています（次ページを参照）。特に、3密を避けながらも熱中症へも配慮することが、スカウティング活動の実施において重要な点になります。学校で、屋外での体育の授業や部活動や登下校時には、マスクを外すような指導が行われていることは、我々も取り入れていかなければならない考え方です。

そこで、活動の実施にあたっては、引き続きスカウト・指導者の体調管理や**感染拡大防止策**（マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス、換気などなど）の継続的な徹底をお願いいたします。特に、食事を伴う活動では座る向きへの配慮と黙食の徹底、テント泊においてはソロテントの使用、宿舎泊においては利用先における対策の確認と、就寝時のソロテントに準じる間隔の確保といった配慮をお願いいたします。

また、野外・戸外活動においては、場面に応じてマスクを積極的に取り外す措置を行ってください。マスクを着用する場面と外す場面を、計画時に具体的に設定し、実施時に徹底しましょう。特に若年の子どもには「苦しかったら外していいよ」のような形で本人に判断を委ねるのではなく、**指導者がマスクの着脱を明確に指示**してください。

野外活動計画書の提出ルートを 隊⇒団委員長⇒地区コミッショナー としている趣旨は、活動にあたっての対策を団内の複数の目でチェックすることの徹底です。したがって、このルートはそのままさせていただきます。さらに、万が一、活動を介した感染者が出てしまった場合の対応に関し、昨年9月30日にお送りした文書に記載の内容を、改めてご確認ください。

過去の関連文書の保管先：<https://drive.google.com/drive/folders/1rXIAgT2pPRIReip-mJJIEQXyiCLgw74F>

引き続き、状況への注意、ならびに活動における感染拡大防止策の徹底をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

弥栄

ご参考:練馬区からの熱中症注意喚起 PR

練馬区では、web サイトにて熱中症に関する注意の呼びかけや応急処置を PR しています。

(<https://www.city.nerima.tokyo.jp/hokenfukushi/hoken/oshirase/necchuushou2.html>)

そのいくつかの内容を、以下に抜粋いたします。

新しい生活様式における熱中症を防ぐポイント

1. 夏季の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの着用の必要のない場面では、マスクを外すことが推奨されています。マスクの着用については、下記のリンク先をご覧ください。
2. マスクを着用している場合には、のどが渇いていなくてもこまめに水分や塩分の補給を心掛けるようにしましょう。
3. 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を確保する必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、エアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。
4. 日頃の体温測定、健康チェックは新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱中症予防する上でも有効です。体調が悪いと感じたときは、無理せず自宅で静養するようにしましょう。
5. 3密(密集、密接、密閉)を避けつつも、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障がい者への目配り、声掛けをするようにしましょう。

熱中症が疑われる場合の応急処置

1. 風通しの良い日陰や冷房の効いている場所など涼しい場所に移動しましょう。
2. 衣類をゆるめ、氷嚢や冷たいタオル(できれば氷温)等で首のまわり、わきの下、足の付け根などを冷やしましょう。
3. 自分で水分がのめるようなら、水分、塩分補給をしましょう。

(注釈) 呼びかけに反応しない場合、意識のない場合、吐いたりして水分補給ができない場合は、直ちに救急車を呼び医療機関を受診してください。

その他に、参考となる情報を掲載している web サイトへのリンクも、多数掲載されております。ぜひ上記リンク先のサイトを訪問して、情報をご確認ください。